進捗状況報告シート

（2011年度・大学）

担当部局は　　☆印の箇所を記入してください。

Ⅰ．評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学研究科
大項目 中項目	4 教育研究組織 （研究科）
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理
	理念・目的との適合性
	学術の進展や社会の要請との適合性
	(KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

Ⅱ．自己点検・評価（2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告）

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。
進捗評価はA～Dの４段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

A　：　目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
B　：　目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
C　：　目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
D　：　目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価 2009	2010	2011	2012	2013
１．総合心理科学専攻学校教育学領域の適正な所属について、大学・教育学研究科とともに検討を開始し、2013年度までに一定の合意を得る。	→検討委員会の設置。検討の記録。	C	C			
２．前期課程・後期課程ともに優秀な准教授からの任用を促進する。	→准教授の前期課程・後期課程への任用までの年限。准教授でそれぞれの課程に任用された教員の人数。	B	B			
３．2010年度以降の昇任人事について、審査期間中（約１ヶ月）、全教員がいつでも業績を見ることができるように制度化する。	→制度化の記録と実施実績	A	B			
			☆			

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》　※　全小項目について記述が必要

小項目4.0.1	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
	（説明）研究組織は、文化歴史学専攻（6領域）、総合心理科学専攻（前期課程2領域、後期課程1領域）、文学言語学専攻（4領域）の3専攻12領域から構成されている。これらは2007年度、3専攻14領域（文化歴史学専攻：6領域、総合心理科学専攻：4領域、文学言語学専攻：4領域）に改組された後、2009年度から臨床教育学領域の教育学研究科への分離統合に伴い、総合心理科学専攻が再編されたことによって現在のような構成になった。学問分野の近接性、関係性に基づく組織化が達成できている。また、人文科学の諸領域において、高度な学問の進展に応じた研究を推進し、研究成果を学界のみならず、教育界、一般社会に還元する理念・目的とも合致した教育研究組織が成り立っている。
☆ 小項目4.0.2	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
	（検証の有無）　いずれかにチェックしてください。　→→→→→→→→→→→→→→　◉ 検証している　○ 検証していない
	（説明）研究組織は、前期課程、後期課程を含めれば、2009年度が完成年となる。組織の検証については短時日で結論がでるものではないが、完成年度に至り、旧専攻が廃止となり、これに伴って大学院学則を一部改正しつつある。総合心理科学専攻の前期課程にある学校教育領域については、変則的な組織構成と言わざるをえないが、社会のニーズが高いこともあり、教育学研究科の組織化とも相まって、学内外から十分に見通すことができ、理解を得られる組織構成を模索すべき時期にきている。
その他	

《評価指標データ》

博士研究員（ＰＤ）の受入状況
日本学術振興会特別研究員（ＤＣ、ＰＤ）の受入人数
研究誌発行状況
提携大学との研究誌等の交流状況（送付・受入）
専任教員の発表論文数【基本的な指標データ】
学術賞の受賞状況【大学基礎データ】
学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文件数
21世紀ＣＯＥプログラムの採択状況
文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択状況【基本的な基礎データ】
特定プロジェクト研究センター制度の活用状況
国際学会でのｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰの延べ回数
☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項　※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価（1）》効果が上がっている事項　注）出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

	小項目4.0.1	
☆	小項目4.0.2	
	その他	

【次年度に向けた方策（1）】伸長させるための方策　注）出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

	小項目4.0.1	
☆	小項目4.0.2	
	その他	

◎改善すべき事項　※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価　（2）】改善すべき事項　注）出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

	小項目4.0.1	
☆	小項目4.0.2	
	その他	

《次年度に向けた方策（2）》改善方策　注）出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

	小項目4.0.1	
☆	小項目4.0.2	
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆	その他（自由記述）	前期課程・後期課程ともに准教授からの任用については、文学研究科「大学院教員及び大学院指導教員選考基準」に規定しており、それを積極的に運用する可能性がある。ただし、運用が停滞していると考えられる面があるので、教員間で運用法について十分な理解に達するよう努力する必要がある。

Ⅲ．学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】
○総合心理科学専攻学校教育学領域について検討を進めることが望まれます。教員の昇任人事については教員間の理解が進むことが望まれます。

【学内委員】
○進捗評価によると、総合心理科学専攻学校教育領域の適正な配置については、昨年と比べて進展が見られず、進捗評価は依然としてＣです、さらなる努力が求められます。
○昇任人事の業績開示は評価できます。総合心理科学専攻学校教育学領域の適正な所属については引き続き検討をすることが望まれます。
○自由記述における内容（任用）については、教員研究組織に大きく関係するとは思いますが、「11教員・教員組織」での記述が適切でしょう。目標２．３についても「11教員・教員組織」での目標が適切でしょう。
○検証に期待します。

【大学基準協会:評価に際し留意すべき事項】
○小項目4.0.1
　基盤評価：なし
　達成度評価：「教育研究組織が、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものである」
○小項目4.0.2
　基盤評価：なし
　達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育研究組織の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている。

Ⅳ．学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

☆ 総合心理科学専攻の前期課程にある学校教育領域は変則的な組織構成となっているので、その所属、教育環境、研究施設の配備等について特に早期の検証を進めなければならない。